

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク(ICN)

#### 1 事業の趣旨・目的

所沢市内および近隣地域に在住している、日本語を母語としない学齢期の子どもの日本語教育を担える人材を養成する。

#### 2 企画委員会の開催について

【概要】 企画委員会はいずれも「子どものための日本語教室」の運営委員会を兼ねて開催した。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2010年 6月18日 14:00～ 16:00	所沢市生涯 学習推進セ ンター会議室	持丸 邦子 辻 恵子 小田 良子 鈴木 幸子 小川 珠子 池嶋恵理奈 オブザーバー: 富田 一成 (生涯学習推進 センター) 佐藤 尊之 (社会教育課)	1. 子どものための日 本語教室 2. 学校派遣 3. 高校進学ガイダン ス 4. 指導者養成講座	・応募以降の経過報告 ・講座内容/募集につ いて説明 ・センターと講座実施に当 つての詳細確認 ・意見交換
2010年 11月12 日 14:00～ 16:30	所沢市役所 会議室	持丸 邦子 湯沢 智子 辻 恵子 唐寄 勝子 小田 良子 小川 珠子 池嶋恵理奈 オブザーバー: 講座受講者5名	1. 養成講座経過報告 2. 養成講座終了後の 活動について 3. 子どものための日 本語教室の現況報 告 4. 高校進学ガイダン ス報告 5. 来年度について	・実施概要報告 ・アンケート結果、スタッフ感 想等報告 ・実施内容について検 討、反省 ・受講者の今後の活動 について検討 ・来年度の養成講座開 講について意見交換

【写真】



### 3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 子どものための日本語指導者養成講座

(2) 養成講座の目標

日本語を母語としない学齢期の子どもの日本語教育を担える人材を養成する。

(3) 受講者の総数 38人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (15 回)

(5) 参加対象者の要件

現職教員および教員経験者・日本語教育の経験者(ボランティア含む)で、修了後市内での子どもの日本語学習支援活動に参加可能な人

(6) 受講者の募集方法

市内:市の広報紙への掲載/市内公共機関等での募集チラシの配布

市内学校関係:生涯学習推進センターを通じた募集チラシ配布

近隣3市:国際交流協会/ボランティア団体を通じた募集チラシ配布

(添付(郵送)資料:募集チラシ、市生涯学習情報紙掲載記事)

(7) 研修会場 所沢市生涯学習推進センター、所沢市新所沢公民館

(8) 使用した教材・リソース 講師作成の資料

(9) 講座内容

日時	講座名/学習内容	講師	受講者数
7月18日 10:00~12:00	・開講式 講義「世界的な人の流れと 所沢の外国人」	城西大学・NHK 学園高等学校専攻科 非常勤講師、ICN 会長 持丸 邦子	27名
7月18日 13:30~15:30	講義「所沢市の学校での公 的な支援」 (体験発表を含む)	所沢市立教育センター 指導主事 生田 晃三	26名

7月25日 10:00~12:00	講義「所沢市のボランティア団体による支援」(体験発表を含む)	城西大学・NHK 学園高等学校専攻科 非常勤講師、ICN 会長 持丸 邦子	28名
7月25日 13:30~15:30	・支援を受けた体験発表 ・フリートーク(1)		25名
8月13日 10:00~12:00	講義「子どもの社会・文化背景」	早稲田大学大学院日本語教育研究 科教授 池上 摩希子 所沢市教育センター非常勤講師・ 所沢市外国人相談窓口相談員 高田 ジャネット	24名
8月13日 13:30~15:30	講義「日本にやってきた子どもの現状と課題 —子どもに日本語を教える際の留意点—(1)」	早稲田大学大学院日本語教育研究 科教授 池上 摩希子	28名
8月17日 13:30~15:30	講義「日本にやってきた子どもの現状と課題 —子どもに日本語を教える際の留意点—(2)」	早稲田大学大学院日本語教育研究 科教授 池上 摩希子	27名
8月20日 13:30~15:30	講義「初期指導」	中国帰国者定着促進センター 教務部常勤講師 齋藤 恵	24名
8月23日 10:00~12:00	講義「小学生への教科の指導法」	中国帰国者定着促進センター 教務部常勤講師 小川 珠子、 小祝 宏志	23名
8月23日 13:30~15:30	ワークショップ「小学生への教科の指導法」	中国帰国者定着促進センター 教務部常勤講師 小川 珠子、 小祝 宏志	22名
9月5日 10:00~12:00	講義「中学生への教科の指導法」	東京都北区立稲付中学校教諭 小川 郁子	27名
9月5日 13:30~15:30	ワークショップ「中学生への教科の指導法」	東京都北区立稲付中学校教諭 小川 郁子	27名

9月4日 又は11日 10:00~12:00	・教室見学/指導体験 ※受講者の希望日に実施		27名
9月12日 10:00~12:00	講義「進路について」	埼玉県立所沢高校定時制教諭 佐藤 良博	24名
9月12日 13:30~15:30	・今後に向けて/フリース ーク(2) ・閉講式		24名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

A) 講座に関するアンケート 集計結果 回収数:17 カッコ内は人数

- (1) 本講座をどのようにお知りになりましたか？(複数回答者有り)
1. 「翔びたつひろば」(市報) (4)
  2. 公民館等のチラシ (4)
  3. 知人から (3)
  4. その他 (7)(所属グループから 他)
- (2) 講座の内容はいかがでしたか？
1. 満足した (10)
  2. 普通 (6)
  3. もう少し違う内容を期待していた (2)
- (3) 講師の話、説明はいかがでしたか？(複数回答者有り)
1. わかりやすかった (15)
  2. 普通 (2)
  3. 難しかった (0)
- (4) 配布資料について
1. 良い (12)
  2. 普通 (5)
  3. 良くない (0)
- (5) 今後どのような講座を希望されますか。
- ・実際の指導方法について (6)
  - ・事例の紹介(JSL カリキュラムを活用できている事例、指導で問題となったケーススタディ) (2)
  - ・高校入学者などの体験談をもっと聞きたい。
  - ・具体的な現場の情報を盛り込んでほしい。
  - ・ボランティアの立場と専任の立場を明確にしてほしい。
  - ・市内の外国人居住者の現状について。国際交流、町ぐるみの支援について。
- (6) 講座全体に関する感想、その他ご意見等。
- ・所沢市の日本語指導の現実を知ることができた。
  - ・行政の不備などの疑問がますます湧いてきた。
  - ・定時制高校の話が参考になった。興味深かった。(2)
  - ・概論的基本と、それに関する事項は多々学べた。「日本語教育の基礎」などより実践的な踏み込みがあるととても良かった。

- ・良い講座だったのでぜひ多くの方に参加してもらい、子ども支援のチャンスを広げてもらいたい。

B) 修了後の活動に関するアンケート 集計結果      回収数:20      カッコ内は人数

(1) 今後の活動参加の可能性について

- A. すぐにでも活動できる (4)
- B. 活動内容によっては、すぐに活動開始可能 (7)
- C. 興味はあるが、スケジュール的に難しい (4) …開始可能時期:省略
- D. 見合わせる (4)…理由:他団体で活動している(4)
- E. その他 (1)…理由:他市で子どもの支援を行っている(1)

(2) 参加したい活動項目

- A. 保護者向け定型文書の作成(各国語版) (0)
- B. 学校での日本語を母語としない子どもの受け入れマニュアル作成 (5)
- C. 教材作成(リライト教材;母国語・やさしい日本語) (4)
- D. 高校進学ガイダンス(10/3 市立川越高校) 参加・見学 (3)
- E. 所沢市内での支援 (15) …支援可能地区:省略
- F. 高校進学後の支援 (3)
- G. 所沢市内小・中学校での支援 (7)
- H. その他 (3)

② 実施主体からの研修内容結果評価

I) 講座内容

2回目の講座開催となる今年度は、昨年度の反省を踏まえ講座の企画に当って、以下の2点を特に考慮した。

- ①講座修了後できるだけ多くの受講者が実際の支援に加われるような方策をとる。
- ②実戦的な講座内容を増やし、支援活動へのスムーズな参加に結びつける。

①として応募条件を変更し、講座内容に教室見学/指導体験を加え、フリートークの回数も増やした。

その結果、受講者は受講当初より目的意識の高さが感じられ、修了時点のアンケートでは、他の団体で活動をしている受講者を除く回答者全員が、すぐに、あるいは近い将来支援の活動に加わりたいとの意思表示をした。希望する支援の形態は、市内の公共施設や小中学校での直接の支援が中心であるが、「マニュアルや教材の作成」など指導以外の支援形態も幅広く提示したところ、それらへの意欲も高かった。

②としてワークショップを2回講座に組入れた。積極的な発表や意見交換が行われ、

それまでの講義内容の理解が進むと同時に、共同作業をすることで受講者同士が親しくなり、活動への参加意欲につながるという効果が見られた。

講座全体としても、支援の現状と今後の支援の必要性について理解を深めてもらえたものとする。

## II) 地域との連携

昨年度も、地域との連携を一つの柱として講座を開講したが、今年度も所沢市生涯学習推進センターとの共催で講座を開講、運営委員に教育委員会社会教育課職員、学校教育課教育センター職員に加わってもらった。講師も昨年同様市内の中国帰国者定着促進センターはじめ近隣の大学、高校などの協力が得られた。

加えて今年度は、現在近隣の市で子どもの支援に当たっている支援者の受講や見学が数名あった。また、講師である定時制高校の教諭が講座を通じて受講者として参加された。これら支援の現場にある人が受講者に加わることで、講座期間中のさまざまな場面で情報交換ができ、受講者にとっては支援の現状を知る機会となり、実施主体としては、近隣市を含む地域との今後の連携への足がかりを作ることができた。

### ③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

研修後の人材活用を柱に、支援体制の充実・拡充を図りたい。

研修後の活動への参加意志を問う形で、研修修了後にとったアンケート〔(10)ー①ーB〕参照〕は、研修中に受講者および講師から出てきた課題をもとにしたものであり、今後の計画の大部分はここに含まれる。

マニュアル・文書作成(A, B)に関しては、近隣地域で作られている既存の文書を参考に年度内に作りたい。教材作成(C)に関しては、来年度、再来年度と小・中学校の教科書改訂が続くので、改訂後に取り組みたい。

高校進学ガイダンス(D)は、来年度以降も取り組む活動である。

所沢市内での支援(E)は、被支援者の発掘にさらに努力したい。

高校進学後の支援(F)に関しては、高卒者の就職などはたいへんに厳しい状況にあるので、情報提供や就職活動支援などの形での支援をするように、高校との連携を図りたい。

所沢市内小・中学校内での支援活動(G)には、第一に校長先生の理解が必要であり、校長先生への啓蒙活動をしていきたい。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

研修終了後、直近で行ったのは、埼玉県等が主催する「高校進学ガイダンス」(10/3)である。

また、文化庁の委託でICNが行っている「子どものための日本語教室」や市内の

他の日本語ボランティア教室との連携において、研修修了生が指導者として活動してきている。

## ②研修後の人材活用

{(10)－②－Ⅱ－①}および上記①とも重なる部分だが、研修修了者には、既に、高校進学ガイダンス、所沢市内のボランティア教室での放課後や平日の日本語学習・教科学習支援、高校進学後の支援、所沢市内小・中学校内での支援活動に入ってもらっている。

高校進学後の支援(F)に関しては、まず、昨年度まで進学者が多かった地元の定時制高校の日本語授業や文化祭の見学に行き、状況を確認している。

所沢市教育センターへの日本語学習支援ボランティアへの登録(G)を希望者は既に行った。学校での支援要請は研修実施前からの継続の件が実施に入っているが、新規の要請はまだない。

## (12) 今後の課題

今回は、ワークショップを取り入れたことで、研修受講者間のコミュニケーションが深まり、結果として、修了後に活動を希望する指導者の人材プールは多少広がったが、修了者の多くが定年退職者であり、実際に支援を開始しようとすると、介護など、必ずしも自由に動ける状態でない方もいらっしゃるため、今後はこれまでの修了者同士の連携を深めて、多くの修了者が活動に入れるようにすると共に、徐々に新しい人材も確保していきたい。

研修についても、経験者と新規活動者と2種類の研修が必要になるため、講座の組み方に新たな工夫が必要となるだろう。

所沢市の支援実施までの過程が近隣の先進地域と比べると、子どもの必要性のみで決めていないところに問題がある。校長先生や教育委員会に、効果的な日本語支援のしくみを提案したい。また、日本語学習への教員の理解を深めるために、市内小・中学校の教員の研修として、日本語指導に関する講座を設置するように提案したい。

また、学習支援ボランティアなど、PTA単位での活動をしている場合もあるので、PTAへの呼びかけもしたい。